

子どもと関わるすべての大人の皆さまへ

「話している時の印象と、成績の低さにギャップがある気がする」「なかなか本読みや書き取りの宿題をやらないけど、やる気がないだけかな」

そう感じた子どもは、もしかすると“読み書き困難”を抱えているのかもしれない。

決して努力不足なのではなく、本人はさまざまに工夫しながらなんとか学びに適応しようとしている。それにもかかわらず、どうしても読み書きに困難があり勉強が辛くなる。それがディスレクシアと言われる“読み書き困難”の状態です（学習障がいの一つに分類されます）。

そのような子どもは、どのクラスにも2～3人いると言われています。

けれど、本人自身も周りもそれだと気づかないことが多くあります。

少し読めることもあります。少し書けることもあります。だから「やればできる」ようになるとも思えます。しかし、本人はものすごい努力と混乱の中にいます。その辛さが不登校につながることもあります。

今回の講演会では、「読み書き困難＝ディスレクシア」についての基礎知識と、子どもたちに寄り添える、実践的な支援の具体例を学びます。

「どうして？」「どうしたらそうだとわかるの？」「そして、どう対応すれば良いの？」そんな疑問に答える講演です。

日本では、まだあまり理解が進んでいない“読み書き困難”（ディスレクシア）。

東北地方では、このような学習の場がまだまだ少ない中、ディスレクシア支援を掲げて25年の認定NPO法人エッジの会長である藤堂栄子氏をお招きし、お話ししていただきます。滅多にない機会です。講演後、個別にお話ししたい方にも対応いたします。

どなたでもご参加いただけます。

お忙しい日々かと思いますが、どうかチラシをご覧ください、少しでも気になる方は、ぜひお越しください。

学習方法研究所 Lab@PAPPA
代表 加藤真由美

*参加の方に満足していただける講演内容にしていきたいと思っています。申し込みフォームで「知りたいこと」などの記入協力をお願いいたします！